

ピンゴ大会あり、浴衣コンテストあり。参加者が浴衣姿というだけで、内容はいたって平和なイベント。参加者全員が浴衣つながりのフロアの一体感は独特のものがありました

クラブ×浴衣ってカッコよくない!? DNAを刺激する、これが浴衣イベントや!

Watching Carefully

取材・文/トライアウト 撮影/森脇クニヒロ

YUKATA JACK 4

@Lab Tribe

「浴衣掛」という言葉がある。日本古来の夏の普段着である浴衣を無造作に羽織りくつろぐ様子を指す夏の季語だ。着物ほど堅苦しくなく、それでいて風流。現代だからこそ、男も女もたまの浴衣姿に惚れ惚れ（萌え?）も性と言えるだろう。

「西陣帯地青年会」という織元（と、その後継者）主催の浴衣姿限定イベント「YUKATA JACK」も4回目。浴衣でフロアを飛び跳ねるその姿は、もしかすると現代版「浴衣掛」!? 「これが俺たちの浴衣のくつろぎ方や」。言葉など知らずとも、浴衣＝ラフなスタイル、という曖昧アバウトな解釈は間違っちゃいない。「浴衣をもっとカッコよく」そんな前衛的な織元の思いとともに、「浴衣乱舞」で日本人に受け継がれた浴衣DNAの存在だけは間違いなく確認できた。次は全国イベント…も予感させる今宵の浴衣ランチキふりには感服。



今宵のイベントの仕掛け人、「西陣帯地青年会」の安田さん。「祇園祭で浴衣をしまう人が多いから、この時期なんです。祇園祭の次はコレって言えるぐらいにしたいですね」

浴衣姿よりも「よちゃらちやっちやっちやらちやっちや」のネタ勝ちか? 浴衣コンテスト男性部門は、美は司法書士の京都版ムデーさん



今度こそ浴衣姿で選ばれる浴衣コンテスト女性部門。市会議員寺田先生のチョイスでタマキさんに決定。先生、受賞理由は? 「私の足を踏んだ元気のよさですね」



「知らなければ何も始まらない」とは現場第一主義、京都市議会議員の寺田一博先生。座右の銘は「温故知新」。イベントではコンテスト審査員役でも登場



今宵の女性はひと際キレイ。ユリ&マユミさん、今日の浴衣のポイント? 「バナナ柄は他にないでしょ!」。洋服と同じ、個性って大切なんですわ



ジュンイチロウ、ミワコ、リカ、セイギの4人組。パッチリ浴衣姿が似合っています。「クラブで浴衣って、めっちゃ気持ちええな!」。新たな酸っぱい、発見です



「ここまで浴衣姿の前で回したことないです」って当然か、今宵のゲストDJ MITSUUの超ジェントル&クールな雰囲気、清涼感さえ感じました